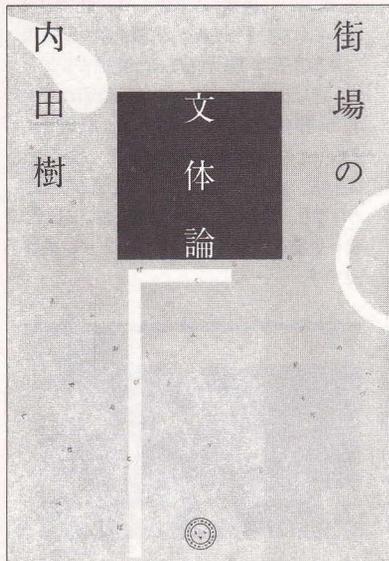


思いを伝え、説明する力とは？



『街場の文体論』

著：内田樹
ミシマ社刊 1680円

生きた言語、説明する力、届く言葉……。文学と言語について包括的に論じる、内田樹氏の神戸女学院大学での最後の講義「クリエイティブ・ライティング」14講をまとめた本書。「相手に何かを伝えたいなら、情理を尽くして語りなさい」と最初に提示したうえで、日本語やフランス語などその言語を使う社会の背景にあるものまで掘り下げていく。出世のために英語力をつけるという風潮に、言語は金儲けの道具ではなく、「そのような欲望の主体そのものを解体する」ためのものだと言く、熱い講義録。



『幸福な田舎のつくりかた』

著：金丸弘美
学芸出版社刊 1890円

全国1000か所に及ぶ農山漁村を訪れ、各地で地域活性化アドバイザーなどを務める著者が、地域の魅力を売り込むトッププランナーたちの活躍を現地取材で紹介する。若手店主が立ち上がった阿蘇市の商店街、地元の魚の魅力を都会に発信する山口・萩の道の駅など、地域活性の最新事例集。



『亀のひみつ』

著：田中美穂
監修：矢部隆
WAVE 出版刊 1680円

著者が飼う亀のサヨちゃんは、今日も家のなかを奔放に徘徊し、一緒に住む猫のあとを“亀突猛進”に追いかける。身近な存在ではあるけれど、その生態についてはあまり知られていない亀について、愛情をもって迫った一冊。冬眠や孵化などの学術的な記述も。亀の微笑ましい行動が心をくすぐる。



『つくるものが生きること
—東日本大震災復興支援プロジェクト』

ディレクター：中村政人
一般社団法人非営利芸術活動団体コマンドN刊 2310円

アーティストたちの東北復興支援プラットフォームとして起動した「わわプロジェクト」の活動の記録が一冊になった。どの活動も、多彩でユニークで楽しい。そこにアートが関わる意味がある。ただし、これは途中経過のレポート。継続した支援が今後も行われるとのこと。期待したい。